

## 2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 国際ビジネス学科	教授	佐々木 裕美
最終学歴	学 位	専門分野
愛知淑徳大学大学院文学研究科博士後期課程 単位取得満期退学	修士	米文学

### I 教育活動

#### ○目標・計画

##### (目標)

担当科目のクラスでは、学生が、語学学習に求められる「我慢強く真面目にコツコツ」を理解し、結果を実感できるように手助けする。

所属学科である国際ビジネス学科の学生に対しては、語学学習に関しては、同じく「我慢強く真面目にコツコツ」を実践できるよう手助けするとともに、それぞれが自分で勉強に取り組む方法を見つけて、地道に続けられるよう支援する。

##### (計画)

学生が、自分自身で課題を見つけ、その解決方法を考えて実践することを重視した授業を心がける。所属学科である国際ビジネス学科の学生に対しては、Study Skills の獲得を意識し、PIA の教員と密に連絡を取り合いながら、協力して学習を支援する。

#### ○担当科目 (前期・後期)

(前期) 英語 I A、英語基礎 I A、ビジネス英語、アメリカの文化と社会、基礎演習 I

(後期) 英語 II A、英語基礎 II A、ビジネス英語、東邦プロジェクト C、基礎演習 II、海外研修 B

#### ○教育方法の実践

できるだけ学生の主体的な学びを伸ばそうと努力した。

#### ○作成した教科書・教材

Laura Ebel, Yuumi Sasaki, 『Academic Study Skills: 大学での学びをより良いものとするために』 2019 年 3 月

#### ○自己評価

概ね計画通りに目標を達成した。

全学共通科目の英語基礎においては、最強の敵である学生の苦手意識を取り除くべく努力した。東邦プロジェクト C においては、年度末の「地域と連携した授業・活動報告会」にいて複数の個人・グループの発表が、最優秀賞、優秀賞、ビギナー賞を受賞し、学生の努力が形となった。英語でプレゼンテーションを行ったグループは、ローラ・イーブル先生担当の ESP-IBC (English for Specific Purposes-International Business Communications) の学生。

ビジネス英語では、主に勉強方法を指導した結果、自主的な努力によって TOEIC テストで結果を出せる学生が出てきた。

### II 研究活動

#### ○研究課題

①アメリカ文学研究・アメリカ地域研究

②ELTiS 教材開発・ワークショップの開催

○目標・計画

(目標)

- ①継続中のフォークナーの文学研究・Scott Heidepriem の著書の翻訳
- ②高校生のための留学試験対策テキスト作成

(計画)

- ①資料収集および調査のためのアメリカ出張
- ②ELTiS 教材の作成・出版

○2011年4月から2019年3月の研究業績(特許等を含む)

(著書)

- ・佐々木裕美「サウスダコタ州の中絶禁止法の厳格化に対して州民投票が果たした役割」(pp. 173-211)『身体・性・生—個人の尊重とジェンダー』(杉浦ミドリ、建石真公子、吉田あけみ、來田享子編著、北仲千里、佐々木裕美、藤原直子、水野英莉著 尚学社、2012年8月)

(学術論文)

- ・佐々木裕美「ハーバート・ハイドプリーム：全米初のDV裁判を勝ち取ったサウスダコタ州弁護士物語」(愛知学泉大学現代マネジメント学部紀要3(2)、pp. 97-106、2015年3月)
- ・佐々木裕美「サウスダコタの中絶論争(8)—合衆国の動向とエヴリン・グリッシーの動機」(愛知学泉大学・短期大学紀要第48号、pp. 95-103、2013年12月)
- ・佐々木裕美「サウスダコタの中絶論争(7)—中絶規制立法と州議会議員選挙—」(愛知学泉大学・短期大学紀要第47号、pp. 115-122、2012年12月)

(学会発表)

- ・佐々木裕美「『野生の棕櫚』における囚われの身と自由の身—シャーロットに向けられる視線を通して—」日本アメリカ文学会第35回中部支部大会(2018年4月21日、愛知大学名古屋キャンパス)
- ・Tomomi Sasaki and Yuumi Sasaki, “ELTiS Workshop: Needs, Efforts and Outcome” JALT 43rd Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition ポスター発表(2017年11月19日、Tsukuba International Congress Center エポカルつくば)
- ・Laura Ebel and Yuumi Sasaki, “Integration of an American School on a Traditional Japanese Campus” 大学英語教育学会(JACET)第43回(2016年度)サマーセミナー ポスターセッション(2016年8月18-19日、京都大学吉田南キャンパス)

(その他)

<ELTiS 受験対策テキスト>

- ・黒澤純子、佐々木智美、佐々木裕美、高橋本恵著『高校生交換留学試験対策問題集-3-』(高校生交換留学試験講座実行委員会2019年3月15日)
- ・黒澤純子、佐々木智美、佐々木裕美、高橋本恵著『高校生交換留学試験対策問題集-2-』(高校生交換留学試験講座実行委員会2018年3月15日)
- ・黒澤純子、佐々木智美、佐々木裕美、高橋本恵、Richard Harris 著『高校生交換留学試験対策問題集-1-』(高校生交換留学試験講座実行委員会、2017年6月1日)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

○所属学会

アメリカ学会、日本アメリカ文学会、日本ウィリアム・フォークナー協会、JACET、愛知淑徳大学

## 大学院英文学会

### ○自己評価

研究課題についての目標は、概ね計画通りに達成した。

アメリカ文学研究においては、フォークナー文学について学会発表を行った。Scott Heidepriemの著書は、著者がなかなか脱稿しないため、延期の状態が続いている。高校生のための留学試験対策テキスト第3号（完結版）を出版した。

資料収集のためのアメリカ出張は、時間的な制約からできなかったため、次年度への持ち越しとなった。

## III 大学運営

### ○目標・計画

（目標）

- ①国際交流委員会委員長としての職務遂行。本学キャンパス国際化のためのシステム作り。
- ②国際ビジネス学科の入学増に向けた学生募集活動。
- ③VICP（ディズニー）プログラムの挑戦者育成。

（計画）

- ①国際交流委員長として、委員会メンバーとともに、留学生を本学キャンパスに招くためのシステム作りに取り組む。
- ②入試広報課と協力して、募集活動に取り組むとともに、本学の魅力について発信する。
- ③VICP プログラムについて発信を続ける。プログラムに興味を持った学生が、TOEIC600 点を獲得して、試験に挑戦するところまでを支援する。

### ○学内委員等

国際交流委員会委員長、地域連携委員会委員

### ○自己評価

①は概ね計画通りに目標を達成した。②は求められることがなかった。③はあまり達成できなかった。以下に①と③について概要を記す。

国際交流委員会のメンバーとともに、本学の国際交流活動をより活発にするための努力をし、実行した。アメリカ人大学生のインターンシップを6週間にわたり受け入れることができたこと、海外に行ってチャレンジしたい学生を応援するための「留学特別奨学金規程」制定によってシステム作りを一步進めることができたと考えている。結果を出すことはできなかったが、海外研修の資金を外部から調達するための官民協働海外留学支援制度への応募、学生の「トビタテ留学」への応募、産学連携の海外スタディツアーの企画など、委員会としてはベストを尽くしたと考える。

VICP プログラムの挑戦者がRBから現れたのは、発信し続けた成果かと思う。ただ出願条件であるTOEICテストの点数が足りず、受験まで至らなかった。

今年度、新たに加わった地域連携委員会の委員としては、「地域と連携した授業・活動報告会」の成功に、少しは貢献できたと考えている。

## IV 社会貢献

### ○目標・計画

（目標）

AFS ボランティア活動を通して、高校生留学支援および国際交流の推進

(計画)

高校訪問コーディネーターとしてのボランティア活動。アメリカ留学を目指す高校生のための、英語能力試験 (ELTiS) 対策講座の開催。日本に留学中の高校生の支援活動

○学会活動等

日本アメリカ文学会中部支部運営委員として活動した。

○地域連携・社会貢献等

公益社団法人 AFS 日本協会のボランティアとして、国内外で高校生の留学を支援する活動に携わった。

○自己評価

概ね計画通りに目標を達成した。

高校生の留学を支援するボランティアとして、活動を続けた。今年度は留学試験対策講座の実施が思うようにできなかった。2018年9月、異文化理解者の育成プログラムのトレーナー研修を受けるため、エジプトに出張し、2019年2月、AFS Intercultural Link Learning Program National Qualified Trainer の認定を受けた。

V その他の特記事項 (学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等)

なし

VI 総括

(教育活動) 概ね計画通りに目標を達成した。国際ビジネス学科の学生の中に、主体的な学びをできる学生が増えてきたのは、ローラ・イーブル先生と続けてきたスタディスキルズの取り組みの成果と考えている。

(研究活動) 概ね計画通りに目標を達成した。研究資料収集のための海外出張はできなかったが、学会での研究論文発表、高校生交換留学試験対策問題集の第3号 (完結版) を完成させることができた。

(大学運営) 概ね計画通りに目標を達成した。国際交流委員会は、委員の皆さんのおかげで円滑な委員会運営ができた。産学連携の結果出来上がった宮本ゼミの海外スタディツアーを実施できなかったことだけが残念であった。

(社会貢献) 概ね計画通りに目標を達成した。異文化理解プログラムのトレーナー認定資格を得るなど、自己研鑽に努めた。

以 上